

自治講習所自治寮日誌——昭和六年度

〔表紙〕昭和六年十一月 炊事日記 山形県自治講習所

〔昭和6年4月に使用した物と同じ赤色のインクで印刷された用紙である。月日と曜日、朝昼晩の人数、所感、来客、当番者氏名の各欄のみを写す。検印はすべて「茂木」〕

11月18日 水曜 朝17人、昼17人、晚17人

所感 なし

来客 なし

当番 佐藤賢三、斉藤寿一

11月19日 木曜 朝15人、昼14人、晚14人

所感 なし

来客 なし

当番 斉藤寿一、朝倉忠右エ門

11月20日 金曜 朝14人、昼14人、晚13人

所感 なし

来客 武田正君、布施椎三郎君帰宅

当番 朝倉忠右エ門、渡辺力

11月21日 土曜 朝13人、昼13人、晚16人

所感

約半ヶ年の意義の有る農場生活を後にし、賑かな山形の空気を吸ひ初め、去る拾七日に旅行隊を歓送し、此処に残りし僅か拾余名の生徒、寮生活にて先づ第一回の炊事当番も第二日目にて終らんとす。小人数とは云ひ乍ら、仕事の仕様は多人数とは何等変り無き、心のゆるす間さらになし、どうしても小人数の為めか、頭が安閑として居るのか、飯を焚かんとすれば米なし、「てんでこまひだ」。米屋に電話をかけてもついに来らず、僕が大きな藪袋を担いで自転車で大駈足、袋につり合ひ無く、小なるかな一升の米、僕と番頭との間に大なる笑声、何処彼処と笑声が絶え間無し。斯様な炊事

もチヨツト面白み有り。

来客 国民高等学校河原先生外生徒二名

当番 渡辺力、菅運五郎

11月22日 日曜 朝16人、昼17人、晚17人

所感

日曜日にも拘らず国民高等学校の甘藷の件で自治寮の旅行残留隊にはかにひしめき立つ。炊事当然と、食ふ為めにする一つの業務だと思へば愉快である。どころが「ところが」炊事当番は試食会するの、長閑で好いのと、俺達は労働して来たのだぞ、早く出せ等々の様に暴言を吐くやつが居るとしたら僕は断然と反省をうながす次第也。この紙面を貸りて一事を記す。でもその炊事なるものを存分に行つた後に、綺麗に整頓したる後に、熱したる身にざあーと冷水にして清め、刻々として来る時を惜しい様に机に向ふ時程決心としても熱としても最高潮の景を画くのである。（以上アベ記）

来客 河原師之兄人田中某

当番 斉藤登、菅運五郎、（手伝 阿部）

22〔11〕月23日 月曜日 朝15人、昼15人、晚15人

所感 なし

当番 斉藤登、朝倉氏

拾壹月式4日 火曜 朝2人、昼12人、晚12人

所感 なし、長谷川君帰宅、前田君来。

当番 斉藤寿一、朝倉忠一

11月25日 水曜 朝12人、昼13人、晚14人

所感 なし、布施君来寮

当番 斉藤寿一、渡辺力

11月26日 木曜 朝14人、昼14人、晚14人

所感

千差万別如何なる当番と云ふ名前の付いた任に当れば、大小拘はらず人知れず苦勞をしなければならぬと思ふ。此れも一の分担として任務を果さんとすればする程任務の大なるかを知る事が出来る。炊事場の総ての使物等を整頓なかつたならば一目通しただけに嫌になる。任務を完全に果してこそ清明心になる事が出来て又天晴である。夕食こそ諸兄等に満足を与へようとした。鈴リンの合図をなして食堂には某君の姿こそ見え、他の人達の影一つも見えない。どうした事だらう。当番の心を察してくれ、自発的に作業しお互い時間を守り、自治的寮生活を大いに発揚し、他寮に普及しようではないか。

当番 渡辺力、布施権三郎

11月27日 金曜日 朝14人、昼13人、晚14人

所感

蚕業試験場生徒自治講習所見学。渡辺力君の友人三名。

来客 ナシ

当番 布施権三郎、前田忠四郎

11月28日 土曜 朝14人、昼13人、晚14人

来客 なし

当番 前田忠四郎、管〔菅〕運五郎

11月29日 日曜 朝十四人、昼十四人、晚十四人

来客 無し

当番 菅運五郎、斉藤登

11月30日 月曜日 人数なし

所感 無し、山田與之助氏奥様見学

来客 なし

当番 朝倉忠、齊藤登

12月1日 火曜日 朝15人、昼14人、晚14人

所感 大久保の牛乳屋さん来客、管運五郎君、渡辺力君帰宅

来客 高谷様一人

当番 朝倉忠一、斉藤寿一

12月2日 水曜日 朝13人、昼13人、晚13人

所感

炊事場は何時見ても心地良き様□□、炊事場は何時見ても心地良き様に常に心掛けべし。

食後奇麗に食堂炊事場を片付け整頓して炊事夫は自分の部屋に入るべし。何にも格別の仕事なき分担ばかりも立派に貫徹すべし。

前田忠四郎君帰り。

来客 高谷様

当番 斉藤寿一、布施権一

12月3日 木曜日 朝12人、昼11人、晚12人

所感

位ら「いくら」留守隊でも拘る不良なる記事は書くべからず。お互に慎みたいと思ふ。吾々は大理想に帰一す、寮の神聖にのつとつて総てに当らなければならぬ。いくら昼食のパンでも随意に食べぐきものでせうか。我々は吾々としての立場ある事を自覚すべきでせう。元気の良いのは最も意気有る青年として、又講習所の生徒として褒むるに価するが、遊び半分の元気は一番困ると思ふ。此の元気を自己分担を通して総てに對する元気の養成に努むべきと信じる。今後益々自重を希望す。

来客 ナシ

当番 布施権三郎、斉藤寿一

〔日付なし〕

所感

長谷川君、牛乳配達するに余程なれた様です。官舎の有給で変ること□□□

12月15日〔日付のみ〕

〔2頁未記入〕

12月8日 火曜日 朝13人、昼13人、晩14人

所感 須藤大兄来る

来客 ナシ

当番 斉藤登、朝倉忠

12月9日 水曜日 朝14人、昼14人、晩13人

所感

須藤大兄より玉子戴き飯は自然に走り、諸大兄皆黄色い声を立て、元氣★盛也。武田君家形、奥山君、遣水君、斉藤君、糶運びに行く（砂とは稲の砂なり）。茂木君手伝ヲ受賜御礼申上候。

来客 ナシ

当番 布施権三郎、奥山貞夫

12月10日 木曜日 朝13人、昼10人、晩11人

〔所感 未記入〕

来客 ナシ

当番 布施、長谷川（手伝）、菅

十二月十一日 金曜 〔朝昼晩の人数未記入、所感未記入〕

当番 菅運五郎、朝倉忠一

12月12日 土曜 朝10人、昼10人、晩12人

所感 前田君来寮

当番 朝倉忠一、齊藤

12月13日 日曜 朝12人、昼12人、〔晩未記入〕

所感

活動見に行、留守の諸子に炊事を行つて戴き、誠に有難ふございました。御礼申上ま

す。

武田君来寮

当番 斉藤

12月14日 月曜日 朝13人、昼13人、晩13人〔所感未記入〕

当番 斉藤登、菅運五郎

12月15日 火曜日 朝13人、昼13人、晩17人

所感 斉藤好七君大兄、森谷君大兄、佐藤三郎大兄、以上二名来たる。終り

当番 菅運五郎、前田忠

12月16日 水曜 朝17人、昼15人、晩20人

所感

午前十一時奥山貞夫兄帰所す。押野、黒沼、斉藤君帰寮す。

来客 なし

当番 布施権、前田忠四郎

12月18日 金曜 朝30人、昼35人、晩46人

所感

視察。旅行隊全部帰形、残留隊もそろいて食事に合ふ。明日から食事が教練のため残留隊諸君がかはる成る。

来客 設楽大兄夜食を食ふ

当番 黒沼四郎太、伊藤安男、奥山貞夫